



東九州支部報



22年度定期総会(4月17日・大分市コンパルホールにて)

平成二十二年(二〇一〇年)度定期総会が、去る四月一七日(土)、大分市府内町の「コンパルホール」で開催された。この総会には会員・会友二六名(ほかに委任状 名)が出席した。

総会議長に三浦敬志会員を選出し、梅木支部長が「今年支部創立五〇周年の記念すべき年で、十一月には記念行事が控えている。五月には韓国蔚山支部との交流登山や、七月の青少年体験登山大会をはじめとした恒例の行事もあり、支部員一丸となって取り組んで頂きたい。日本山岳会は会員の高齢化が言われており、若年会員の加入促進や、そのための活動活性化、公益法人としての活動の公益化など幾つかの課題がある。また、『山の日』の設定運動など、幅広い活動も進めなければならぬ」と挨拶した。次いで平成二十一年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告がなされて、報告通りに承認された。

そのあと、二十二年度事業計画(案)、二十二年度会計予算(案)が提案され、五月の韓国山岳会蔚山支部との交流登山を韓国岳を中心とした霧島連山で実施することや、七月には恒例の青少年体験登山大会の実施、秋に予定される視覚障害者支援登山大会などの計画や自然保護の取り組みなどが決まった。また今年度の月例山行は「九州の川の源流の峰に登ろう」というテーマで、九州と大分県内の主要な河川の源流をなす峰をめざすこととなった。またこれを実施するために、月々の山行の具体的計画をたててリードする担当者を決めて実施する案も出されて、役員会で具体的に検討することとなった。このほか、現在役員会で具体化の検討を進めている、支部のホームページの開設も、出来るだけ速く実現出来るよう取り組むこととなった。

支部定期総会を開催 創立50周年行事など決定

飯田勝之

《 も く じ 》

支部定期総会開催	1
50周年記念事業	2
彦見山・釣鐘山・宇治山	2
若杉山・砥石山	3
千灯岳・鶯巣岳	4
三本杭・高月山・鬼ヶ城…	4
年次晩餐会に参加して	6
九州脊梁山岳縦走の報告④	6
私の無名山ガイドブック	41
お知らせ	8
後記	9

一二月に五〇周年 記念行事を実施

定期総会で決められた五〇周年
記念事業の概略は次の通りです。

記念式典

月日：一月六日(土)
時間：一四時〇〇分～一四時三〇分
場所：大分市・コンパルホール
『多目的ホール』

記念講演会

月日：一月六日(土)
時間：一四時四〇分～一七時〇〇分
場所：大分市・コンパルホール
『多目的ホール』

① 日本山岳会会長 尾上 昇氏

『日本の登山と文化(仮題)』
② 石川富康氏(岐阜支部)
『美しき七つの峰(仮題)』
(最高齢で七大陸最高峰登頂
の話)

記念祝賀会

月日：一月六日(土)
時間：一八時〇〇分～二一時〇〇分
場所：センチュリーホテル

記念資料展示会

期間：一月五日(金)～七日(日)
場所：大分市・コンパルホール
展示物：登山文化の歴史を語る各
種道具類、絵画、写真、出版物等

記念山行

月日：一月七日(日)

場所とコース：鶴見岳の鳥居～鶴
見山頂～馬の背～南平台～鳥居を
メインコースとする長短バリエー
ションルートを組み

記念誌の発行

発行日：一〇月末日
編集計画：挨拶文、祝辞文、一〇
年間(四〇周年から)の沿革、一
〇年間のトピック(中央分水嶺、
青少年体験登山大会、韓国山岳会
蔚山支部との交流、他)、会員の
投稿、物故者追悼文、海外登山の
実績等

記念海外遠征登山

実施時期：一〇月
場所：ネパールヒマラヤ
Aコース

6日 福岡空港出発

7日 カトマンズ

9日 ナムチェバザール

17日 カラパタル登頂

22日 カトマンズ

25日 福岡空港帰着

Bコース

16日 福岡空港出発・カトマンズ

19日 ナムチェバザール

22日 カトマンズ

25日 福岡空港帰着

経費

Aコース

ネパール国内費：2,600ドル
渡航費：150,000円(一人)
部屋追加料金110ドル)

Bコース
ネパール国内費：2,011ドル

渡航費：150,000円(一人)
部屋追加料金140ドル)
参加募集締め切り：7月末日
参加申し込み：事務局

参集の呼びかけ

記念祝賀会及び記念誌を除く全
ての行事に会員、会友はもとより、
日本山岳会全国各支部会員、及び
県内一般参加者等の参集を呼びか
ける。

一二月度月例山行計画

今年度の月例山行は、次のよ
うに決まりました。また、これら
の具体的実行計画とその山行をリ
ードする担当者を毎回決めて行
うことになりました。

テーマ：「九州の源流の峰に登る
う」

五月 霧島山(大淀川・川内川)

六月 経塚山(八坂川)

七月 本谷山(大野川・五ヶ瀬
川)

八月 英彦山(山国川・遠賀川)

九月 国見岳(耳川・緑川・球
磨川)

一〇月 両子山(桂川・安岐川・
田深川・来蒲川・伊美川)

十一月 鶴見岳(大分川・駅館川)

十二月 井原山(室見川・嘉瀬川)

一月 尾崎山(耳川・小丸川・
一ツ瀬川)

二月 九重山(筑後川・大野川
・大分川)

三月 市房山(球磨川・一ツ瀬
川)

四月 中の嶺(番匠川・北川)

月例山行報告

彦見山(886.2)・釣鐘
山(852.1)宇治山・(64
6.9)

(一二月月例山行報告)

宮本真理子

一二月二七日、月例山行の飯
田さんからのお誘いに、五時〇〇
分出發の「大分組」と中津市山国
町支所で待ち合わせの為、宮本は
五時三〇分、山香を車で出發。山
国町支所には六時五〇分前には到
着。七時に「大分組」と合流。道
の駅「守実」に移動し、ここに車
を置いて中野車に乗せていただく。
最初に釣鐘山を目指し、国道二
一二号の桑鶴からコロナ運動公園
を抜け、市平上より林道に入る。
釣鐘山登山口の階段と標識を探す
も林道工事中の為が見つけられ
ず、そのまま通り過ぎてしま
う。そこで急遽予定を変えて先
に彦見山に登ることになり、林道
をさらに進む。

GPSで位置を確かめて、林道
のカーブにある小さな広場に駐車。
膝のお悪い西さんに留守を託して
七時四〇分、飯田さんを先頭に四
人で道のない斜面を登山開始。い
きなり黒モジ林の急登にて、滑ら
ないように霜柱を踏みしめ慎重に
一歩、一歩登る。程なく尾根筋に
出る。急斜面のひと登りで三角点
に着く。八時一〇分に到着。

886.2mの四等三角点のあ
るところは南東に傾斜した尾根の
途中で、山頂はそこから離れた、
少し登ったところにあった。ここ
が釣鐘山から中摩殿畑山へと繋がる
縦走路だ。北西に英彦山を仰ぎ、
皆で記念撮影。

(彦見山三角点で)



ここで中野さん引き返して車ま
で降り、西さんと釣鐘山登山口へ
と移動する。飯田、牧野、宮本は
このまま縦走路を歩いて釣鐘山を
目指すことになり、八時四〇分に
出發する。エゴ、コナラ、カエデ、
リョウブなどの林を抜け、明るい
稜線上の小さなピークで小休止。
遠く日田盆地の朝霧の奥に釈迦
岳、御前岳、渡神岳などの津江の
山々が顔を出す。八時五〇分、登
山口より登ってきた中野さんが釣
鐘山を過ぎて迎えて来たのと合流
する。八時五五分釣鐘山852.
1m(二等三角点)に到着する。
木立の中で眺めはないが、朝日の

木漏れ日が心地よい。

(釣鐘山山頂にて)



下山して、最終地点でようやく朽ちた丸太の登山口の階段を発見することが出来た。

次は奥耶馬の「焼畑」という三角点のピークを目指し、GPSを頼りに何度かの堂々巡りのすえ、ようやく登山口を見つけることが出来、一〇時四〇分登山開始。イノシシのヌタ場のある広い谷間の湿地帯から尾根へと急登、タブやアラカシ、スタジイ林の中、433.1m(四等三角点)の山頂到着。一時〇〇分。

最後は裏耶馬の宇治山に向け、キャンプ場を目指す。狭い車道を上って行くがシーズンオフでキャンプ場は鎖で施錠されていた。一時四五分、ゲート前の舗装工事の中の林道より登り始める。未舗装箇所では足を取られる程のぬかるみ道が続く。途中より林道を離れ

てヒノキ林の尾根沿いの急登を喘ぎ、喘ぎ登っていくと再び林道に出くわす。ぬかるんだ急斜面の林道だが、登っていくとその道は頂上へと繋がっていた。

一二時二五分、646.9m(三等三角点)の頂上に立つ。釈迦・御前岳を遠くに仰ぎみ、電波塔の真下にて暖かな冬の日差しを浴びながらおむすびを頬張る。牧野先生から頂いたおみかんの甘くておいしかったこと。

(宇治山山頂にて)



一三時〇五分下山開始。りっぱな道があり、その道はなんと閉鎖中のキャンプ場の中へと繋がっていた。下り二〇分足らずで、登り四〇分間のあのぬかるみ道での苦労はなんだったのか?と思う位のらくちん下山であった。

皆さんはその後、道の駅に隣接された「なかま」温泉にて二〇〇九年の垢を流すべく、直行。宮本

は久々の山行にわくわくして前夜一睡もしていなかったことから、西さんの助言に従って入湯を諦め、早々帰途に着いた。

参加者：飯田、西、中野、牧野、宮本

若杉山(681m) 砥石山(828m)

(二月月例山行報告)

中野 稔

一月一七日(日)午前五時サニースポーツ出発。別府IC経由で大分道に乗る。今は休日一律千円だが料金体系はやがて変わるといふことだ。車の温度計は氷点下二度から五度近くを行き来する。路面凍結が心配だが取り越し苦労だった。大幸府ICから県道60号線でショウケ越を目指す。峠に差し掛かるころから路肩に雪が残り路面の状態が気になりだしたが、スタッドレスタイヤなので急ブレーキに注意しながら峠の路肩の雪の中に車を乗り入れた。正月に指山に登った時も駐車場から雪道だったので浮き浮きだった。重廣さんお勧めのアイゼンも絶好調。登山道具は命を預けるものだから日頃の手入れが重要だとは彼の言葉

である。身が引き締まる重い言葉だ。

この山系は十数年前、「マイカーで行く九州一〇〇山峰」と「九州百山」で三度ほど訪れたことがある。あの頃は一日三山と決め込んでいた。のんびり登山をする趣味は無いが、郷に入れば郷に従えという諺を体験すべく実践している。

二回は、宝満山、三郡山、若杉山ピストンを七時間位で行った記憶がある。ただ、二回とも砥石山から三郡山への途中で両足の太ももに痙攣が来た記憶がある。雑念を消す事が目的の一つである。

午前八時ショウケ越から若杉山迄約一時間で到着。直前の若杉鼻の展望台は、澄んだ空気のせいもあって綺麗な写真が撮れた。ただ逆光なのが欠点だ。山頂部は電波



(若杉山山頂にて)

塔が占領し植林のせい空気は重い気がした。雪の登山道は心が弾む。赤倉スキー場で思い切り新雪にヘッドスライディングした記憶がある。分厚い布団に飛び込む感じだ。優しく包む雪のイメージが有るからだろう。

山頂は展望もないので写真を撮って早々に引き返し、十時に再びショウケ越から砥石山を目指す。鬼岩谷近くになると若杉山より100m以上高いので雪も深くなる。一〇時四五分、一等三角点の鬼岩谷到着。目的の砥石山はまだ少し先だ。写真撮影をすませて先へ進

(鬼岩谷山にて)



む。西さんはここから引き返す。十一時二十六分に砥石山に到着。稜線上の深い木立の中の、なんの変哲もない山頂だ。深い雪の中、福岡市に近い日曜日この山城は何時登山者が多いが、今日は人影もちらほら。写真を撮って直ぐ

(砥石山にて)



に引き返す。十二時過ぎに本日二度目の鬼岩谷山山頂で三角点を撫でて下山。

宇美町の中の原からの登山道が有るらしく登ってきでいた。春の花に彩られた山、夏の暑い太陽と額を流れる汗と緑に映える山、秋は紅葉に燃えるような山々、冬は雪に彩られし木々や山々もそれぞれに素晴らしいものである。

一時ちようど、今日三度目のシヨウケ越えの峠に戻りつく。あとには温泉があるのみ。予定の伊川温泉を目指す。

国道201号線沿いにある。二〇〇三年水害被災に遭った嘉穂劇場が近くにある。別府温泉で癒されてきた大分県人にとって異国の温泉は物足りないかもしれない。大地の恵みと考れば、それもまた楽しい癒しのひと時であり、何物にも代え難い大自然のパワーを蓄えるチャンスと考えれば楽しいものである。伊川温泉センター、

伊川の郷、この湯温泉、松柏園ホテルと四種の温泉が集まっている。

帰りは国道201号線篠栗街道にて東に向かい、行橋近くの県道58号線にて椎田道路に出る。時間的には高速道路で帰った方が早い。

参加者：飯田、遠江、西、中野、牧野

千灯岳 (605m)・鷲巣岳 (436m)

(二月月例山行報告)

牧野信江

二月二日(日)午前六時サニ一出発。途中、山香の「風の郷」を過ぎたところで太田村への道が工事のため通行止めとなっていた。中野さんの車のナビのおかげであまり遠回りせずに迂回でき七時二〇分に千灯岳の登山口、不動茶屋前の広場に到着。別の車で一人で来る予定の土居さんと携帯で連絡をとると、迂回路を豊後高田の方まで回られて遅くなるの返事。「手抜きして、少し楽なコースをとろう」との提案で、車で不動茶屋から少し下ったところから林道を千灯岳北東稜線の峠ま

る。ここから登ると、三〇分は短縮できるとのことだ。

八時五分出発。天気はよい、少し登ると、目の前に千灯岳が高くそびえ、振り返ると大きな不動岩が遠く見える。かなり急な登りが続き、振り返るたびに高度が上がって、遠くに国東半島の海岸線や姫島が見えてくる。

八時五〇分山頂到着。広い山頂は静かで、木の間から文殊山や両子山、大門山などが見える。遠くで猟犬の鳴き声が聞こえる。九時に山頂をあとにする。土居さんに(千灯岳山頂にて)



狭い道をどんどん上り、ほとんど平らな稜線の三叉路で車を止めた。そこは林道終点の少し手前だった。

林道終点が登山口で、一〇時一五分に出発する。広々と伐り開かれて、緩やかな傾斜の稜線道は快適だ。美しい木立の中をゆっくりのんびり歩く。一旦小さく下って唯一の急な登りがあった、その先に石の鳥居があった。一〇年ほど前はバラバラに壊れて散乱していたというが、立派に修復されて立っている。西さんの話では以前はカヤが繁っていたのが、カヤがなくなり、木が多くなっているとのことだ。木立の間からさつき上った千灯岳や不動岩が見えた。いくつもの大きな石を縫うように平らな道を行くと、まもなく山頂だ。

一〇時五三分到着。細長い平らな山頂の一角に三等三角点がある。(鷲巣岳山頂にて)



記念写真を撮り、いつもの西さんの「バンザイ」と「ヤッホー」で下山開始。

一一時三五分に車に着く。弁当の場所を探しながら車で下る途中、登山口の直ぐ下にある「鬼籠環状列石」のところに、暖かな日だまりの場所があったのでそこで昼食をとる。帰りは赤根温泉に寄る予定だったが、改修工事のために山香の風の郷に入って帰った。道端には黄色の菜の花があちこちに咲いていた。

参加者：西、土居、飯田、中野、牧野

三本杭 (1225.7m) 高月山 (1228.8m) 八面山 (1166m) 鬼ヶ城 (1151m)

(三月月例山行)

中野 稔

三月二〇日(土)午前一時、一年ぶりの四国へ向けてサニースポーツを出発。県南への高速道路は佐伯迄だが、蒲江迄延びる予定はある。しかし延岡までは未定なのだ。臼杵で八幡浜フェリー出発ま

港から見えるミカンの段々畑の高台へドライブと決めつけ、ついでに田所さん達を乗せたオレンジブエリーをオレンジ畑の高台で見送っている、我々が乗る筈のフェリーが港へ近づいてきた。慌てて狭く急な蜜柑畑の作業道を港へと車を走らせた。港に着くのはフェリーには負けたが、乗船迄の間は十分ある。

土産のカマボコやジャコ天を買って四国の風を満喫した。瞳を閉じると人生五十余年の思い出が走馬灯のように蘇る。残りの人生を描いてもわれ閑せすの様にフェリーは臼杵へと淡々と何事も無かったように航海している。夕陽に染まる臼杵港には六時に着く筈だ。

(大久保山山頂にて)



参加者：飯田、西、中野

平成二十一年度日本山岳会 年次晩餐会へ 参加して

佐藤 壯悟

十二月五日夕方六時より、東京・品川のグランドプリンスホテル新高輪にて平成二十一年度の年次晩餐会が開かれた。出席者数は約五百名で、昨年同様に皇太子殿下がご臨席され、また、韓国山岳会の崔弘建会長も来賓として参加された。東九州支部からは、西孝子・佐藤壯悟の二名が参加した。

会の流れは、会長挨拶、物故者への黙祷、新名誉会員発表、新永年会員発表、第十回秩父官記念山岳賞授賞、新入会員紹介、鏡開き、乾杯という順だった。
樽酒での鏡開きには、皇太子殿下もハツピをお召しになり、ご参加された。
食事はアルプス山脈に見立てた『スモークサーモンとカリフラワーのムース』、山の恵みの『森の茸と鴨フオアグラ入りチキンコンソメスープ』、『真鯛のワイン蒸しと帆立貝のソテー ポテトのムースのモンブラン仕立て』、『トマトのコンフィを載せた紅浅間のイメージの『牛フィレ肉のポワレ』、剣岳の雪解けをイメージする『ホワイトチョコレートのムース』、『コーヒータンポロのムース』、その他、富士のミネラルで作った

『胡桃入りパン』などが振舞われた。
三時間ほどで晩餐会が閉会し、帰りのお土産として、秩父宮雍仁親王殿下の著された『秩父宮とスポーツ』と韓国山岳会崔弘建会長のご好意による『日本山岳会マーク入りワッペン』が配布された。

『鋸山』

翌日六日の『晩餐会記念山行』は千葉県『鋸山』へ向かうことから始まった。午前八時に品川駅前に集合しバス二台で出発、『アクアライン』を通り、東京湾を越えて千葉県へ入る。九時四十分頃に現地到着し、歩き始める。道は緩やかな登りのスロープを五分進み、その後は階段を上がることになった。寺の門にさしかかり、『日本寺管理所』（拝観料が必要で大人六百円ほど。事務局が参加料に含んでいた）で拝観手続きを行った後、スロープや階段を上がり、十時四十分頃、十州一覽台（展望台）へ到着。
ここでは東京湾の彼方に富士山や東京の街が見渡せた。五分ほど休憩し移動再開、降りると登りを十分ほど経て、断崖の間にある『百尺観音』前に到着、そこから十分ほど登り、十一時十分、『山頂展望台』に到着した。

ここは先ほどの展望台よりも展望が開けており、東京湾や富士山はもちろん南総の山々が見渡せた。五分ほど休憩して降り始め昼食会場である『日本最大の大仏』前広

場を目指す。途中、小さな観音像を多く見る。
十一時四十五分に昼食会場へ到着。恒例の『トン汁』が振舞われた。美味しい『トン汁』であったが、上空を舞う鷲がその匂いをかぎつけ、急降下、数名の参加者の昼食が被害にあった。大仏前で記念撮影を行い、十二時半にバス乗り場へ向けて下山。十三時前にバスへ乗車し東京へ向け出発。一三時半にアクアライン上のドライブイン『海ほたる』に到着。東京湾が見渡せた。

終点、品川駅前に予定より一時間早い十四時五十分に着山行の日程は無事終了した。温和な気温や天気にも恵まれた一日であった。

九州脊梁山地 縦走の記録 (その四)

下川 幸一

五月一七日(最終日)曇のち雨。いよいよ最終日を迎えることになる。朝四時四五分、起床と同時にテントの外に出ると濃霧となっており、ラジオで天気予報をチェックすると九州全域が本格的な雨

所によつては雷雨という厳しい情報である。江代山だけは何ともしも登り、縦走を完結したいという皆の強い思いで江代山麓の幕営地を六時に出発。

県境稜線の道なき道の杉林の急斜面を木の枝をつかみながら必死でよじ登っていく。江代山・馬口岳分岐への最後の急な登りで雨が激しくなり、急遽雨具を装備し、小休憩。

標高差約250mの強烈な急登に入る。一歩一歩着実に前に進むしかない。雨も気にしながら一気馬口岳分岐に着く。そこからは幅の広いなだらかな稜線で、きれいに整備された尾根道を進み、最後に木製階段の急坂を登って、ついに江代山山頂(1606.7m)に着いた。七時五〇分だ。



(江代山山頂にて)

山頂は強い風と濃霧に覆われ、あいにくの天候であったが、九州脊梁山地縦走計画が無事完結した

喜びで記念撮影。

昨日の午後から不通だった携帯がやっと繋がり、安部先生に連絡をとると、江代山から下山して帰るなら迎えに行ってもよいとのこと。山頂で三人協議。当初の計画に入れていたこの先の矢立峠から二ツ岩を経て市房山への県境稜線は近年の台風で崩壊が激しく入山禁止となっており、しかも今日の雨では深いヤブと崩壊地はいっそう危険であろうと判断し、後日の楽しみに残して安部先生の好意に甘えることにする。

小雨降るなか、早々に江代山頂をあとしして下山開始。山頂直下から左に折れて、九州大学演習林の中の道を下る。ジグザグの単調な下りが続くが、途中で水量の多い谷を渡り、モミの巨木、ナラの巨木、巨石を通過。演習林は広大な面積に自然が残り、花や木の詳しい説明もあり、大変価値のあるコースであった。そして一〇時一五分、やっと湯山峠に到着。

途中から雨も小降りとなり、下り着いた時には止んでいた。山頂から丁度二時間かかっている。矢立キャンプ場はシーズンオフで閉鎖されていた。近くの農場で仕事をしていた人に交渉したら、湯山温泉まで車で送ってくださること。再び降り出した雨の中、助かった。一一時一〇分に温泉に到着。安部先生に携帯を入れたら椎葉のあたりを来ているとのこと。三人は早速温泉で四日間の山行の疲れをとり、待望のビールで乾杯する。

最高にうまい味だった。

一四時、遠路迎えに到着した安部先生の車に乗り、人吉経由で一路大分へ向かい、一九時に無事大分ICに到着した。

《5月17日の参考データ》

江代山手前(幕营地) 発の時〜江代山 7時30分/8時10分〜湯山峠 10時7分/9分〜矢立キャンプ場 10時15分/16分〜湯山温泉(元湯) 11時10分/14時〜大分IC 19時

正味歩行時間 || 8時間33分

歩行距離 || 約88km

(向坂山から見た市房山)



《感想》九州脊梁山地主稜線「黒峰〜小川岳〜国見岳〜鳥帽子岳〜白鳥山

「江代山」の縦走に四日間を要したが、かなり難易度の高いもので私の始まったばかりの登山人生の中でも忘れることのできない山行となった。この価値ある縦走が来たのは、東九州支部の山仲間のおかげである。特に、銚子笠〜江代山間は全く登山道のないかなり難しい山域であったが、なんとか無事歩き通せたのはGPSを駆使し、目指す山容を的確に判断し、自信をもって進んだ飯田・久保両パートナーのおかげである。

今回の縦走四日間で特筆すべきは、この難しいコースで道に迷ったのが僅か二度というすばらしい正確さである。(1)小川岳の途中 ②白鳥山から銚子笠・時雨山中岐で道を間違えて30分のロス) いずれもGPSで判断し、道に迷った時の鉄則「引き返す」を実践した事が幸いした。私自身も内山縦走で道に迷い空溪流を下る大失敗の経験が活きたと思っっている。つまり「道に迷って一〇分経ったら引き返す」で決して深入りしない事だが、パートナーの二人はすぐ修正したのには感心させられた。

この貴重な体験をこれからの山行に活かし、生涯現役の気持ちでチャレンジしたいと考えてる。

私の無名山ガイドブック

飯田勝之

里山の稜線歩き

(その12)

佐伯市郊外の里山の稜線を紹介しよう。今回のコースは里山というにはいささか市街地から離れず、本匠村の里人にとっては身近な里山と思われるので、あげてみた。

「石鏡山」(310.4m)

佩楯山から東に連なる長大な稜線は、旧大野郡と南海部郡の境界をなして椿山を最後のピークとして井崎川の湾曲部へ急降下している。この長い主稜線上にあるいくつかのピークの中にある、冠山から南に派生する支稜線があり、この稜線は最後のピークから急傾斜で番匠川の湾曲部に落ち込んでいく。この最後のピークが石槌山である。あたりの山はほとんどがスギ、ヒノキの植林地であるが、この山は急峻な斜面と神社の境内林のため、まわりは素晴らしい照葉樹の天然林である。四等三角点のある山頂は、最高地点に二つの石の祠と石祀があり、前の広場のすみにも祠があり、三角点は祠の前の小広場のほぼ中程にある。

県道三重弥生線の旧本匠村役

場のあった、波寄から西へ約800m、荒瀬の集落のはずれの県道の上にある保食神社が登り口になる。県道から北向きに新しい石段を登ると真新しい社殿があり、その東横から登る道が登山道となる。神社の直ぐ裏手の道脇に金比羅宮や、祖母岳神社など四つの祠がある。茶畑の脇を通り、スギ林の中を登ると、五分ほど左に稲荷、金比羅、地蔵の三つの石の祠があり、その横を過ぎると右は明るいつ伐採地あと、左は背の低い照葉樹の茂みで、その間の小径を登る。

やがて両側がシイ、カシのうっそうとした照葉樹林の中の登りとなり、傾斜も急になる。神社から三〇分ほどで左にクサリ道が分かれる。まっすぐ登れば照葉樹の中の急斜面のジグザグ登り一〇〇分〜山頂へ。クサリと岩場登りと染しむ向きには左に行くと面白い。水平に80mほど行くと岩稜の裾に着く。石灰岩の岩場に張られた古い大きなクサリは歴史を感じさせる。二〇mほどで新しいステンレスのクサリとなり、ほどなく岩稜の上に登りつく。あとは楽しい岩稜歩きで山頂まで数分である。

- ・参考タイム：県道↓1分↓保食神社↓30分↓クサリ分岐↓15分↓山頂
- ・地形図：25, 000分の1：植松

(石鎚山)



「鷹子」(382.5m)

椿山から南に派生する稜線が、番匠川落ち込む手前のピークが鷹山である。この山の北と東の山腹は広く植林されているが、山頂付近は広い範囲で混交自然林が残りが、かなり古い林相を呈している。三角点のまわりはナラ、クヌギなどにアラカシ、イス、ネジギ、アセビ、シキミなどが見られる。

県道三三重弥生線の風戸の旧道の公民館の手前から白谷の採石場へと入る市道を上ると、旧県道から約3.2kmで竹原の上の峠の三叉路に達する。三叉路を左に林道を行けば椿山への道だ。舗装の三叉路の脇から右に、別の山道が右手の稜線へと延びて、入り口に「寺屋敷跡」の標識がある。これが登り口によい。細い車道を3分も行くと廃屋の跡地で、茶畑がある。廃屋の横から裏手のスギ林に入り、稜線を登る。やや急な稜

線登り10分で石灰岩の露岩の多い自然林の稜線となる。照葉樹の露岩の稜線登り5分で383mの鈍頂に達する。まわりは素晴らしい照葉樹の林だ。ここから南にやや急な下りとなり、小鞍部にいたって再び登りだ。植林地の多いこのあたりの山にしては珍しく自然の残る稜線道だ。緩い登りが続いたあと、最後に急斜面を登り切ると、やや東西に長い山頂に達し、東に80mほどたどると、平らな山頂の東の端に四等三角点がある。

参考タイム：竹原の峠↓20分
↓83mピーク↓15分↓三角点
地形図：25, 000分の1：
植松



(鷹山)

お知らせ

五月月例山行のご案内

・月日：五月二三日(日)～二四日(月)

・目的地：霧島山(二三日)えびの高原→韓国岳→獅子戸岳→新燃岳→中岳→高千穂河原→高千穂河原→高千穂峰→皇子原(宮崎県・鹿児島県) (大淀川・川内川の源流の峰)

※韓国山岳会蔚山支部との交流登山と兼ねて実施します。
※前夜(二二日(土))蔚山支部歓迎懇親会を実施します。

六月月例山行のご案内

・月日：六月五日(土)

・目的地：経塚山(612m) (八坂川の源流部)

・出発：六月五日午前七時
サニー出発。
※梅木支部長の喜寿と、星子会員の傘寿のお祝い登山大会も行いますので、みなさん多数の参加をお願いします。

七月月例山行のご案内

・月日：七月四日(日)

・目的地：本谷山(642.9m) (大野川・五ヶ瀬川の源流部)
・出発：七月四日(日)

八月月例山行のご案内

・月日：八月八日(日)

・目的地：英彦山(1199.6m) (山国川・遠賀川の源流部)
・出発：八月八日(日)
午前五時サニー出発

午前五時サニー出発

五〇周年記念海外遠征登山隊員の募集

総会の記事(二頁)欄に記載してありますとおりの予定で実施します。会員・会友の積極的参加をお願いします。また、一般参加者の募集も行いますので、お知り合いの方などに参加を誘ってみてください。

参加締め切りは七月三十一日までです。支部報と同封でお送りした申込書で申し込んで下さい。別に申込書が必要な場合は事務局にあります。

日時 五月七日(金) 午後六時から

場所 大分市府内町 「コンパルホール」

・実行委員(主・副担当者)

・記念講演会 (梅木)

・記念式典 (宇津宮)

・記念祝賀会 (加藤)

・資料展示会 (佐藤浩・中野)

・記念山行(国内) (野村、緒方)

・記念山行(海外) (甲斐(良)・星子)

・記念誌作成 (安東・久保)

・参加記念品 (甲斐(一)) (首藤)

・記録 (安藤(幹)・飯田)

・事務局 (西・阿南)

喜寿・傘寿のお祝い登山

今年が喜寿・傘寿を迎える会員がいますので、お祝い登山会を実施します。このお祝い登山会は六月の月例山行と併せて実施します。会員・会友の多くの皆様のご参加をお願いします。

○今年喜寿を迎える会員 梅木 秀徳

○今年傘寿を迎える会員 星子 貞夫

支部役員および五〇周年記念事業実行委員の主、副担当者はお集まり下さい。詳細は六月の月例山行の欄をご覧ください。

韓国山岳会・蔚山支部との交流登山会について

とになっていますが、まだ出していない人は至急出して下さい。会員会友の皆さん、万障繰り合わせのご参加をお願いいたします。

韓国の方々のかねてよりの希望で、霧島連山の韓国岳などで実施することになっています。参加についてハガキで返事をする。スケジュール

ここは何処？

・この写真は何処から何処を撮ったものでしょう？



・お分かりの方は事務局まで、はがきでお知らせ下さい。当たった方には記念品をさし上げます。(二名までで、正解多数の場合は抽選します。)

・締め切り五
月末日

前回の正解は北アルプス、烏帽子岳の小屋から水晶岳、赤牛岳の早暁を撮ったものでした。

五月二二日(土)

午後六時から懇親会

五月二三日(日)

山行：えびの高原→大浪池→韓国岳→獅子戸岳→新燃岳→中岳→高千穂河原

五月二四日(月)

高千穂河原→高千穂峰→皇子高原

原

スケジュールに応じて出来るだけの参加をお願いします。

五〇周年記念誌の原稿募集

内容：随筆、エピソード、山行報告など

字数：二〇〇〇字まで

海外登山の記録募集

記念誌に載せる海外登山の記録を報告して下さい。

対象期間：二〇〇〇年一月一日から二〇〇九年十二月三十一日

報告内容：活動期間(出発から帰国までの年月日)、地域(国名他)、山名および標高、記事(登山隊名、人数及び簡単な行動内容等)

送り先：大分市南津留五二二八

安東桂三

(09057279472)

Eメールアドレス

keizoando@galaxy.ocn.ne.jp

締め切り：平成二二年四月三十一日まで

新刊書

「九重山・法華院物語・山と人」

松本征夫・梅木秀徳編

九州の屋根・九重山の魅力の原点がここにある

《加藤教功、立石敏雄、弘蔵孟夫、工藤元平、梅本昌雄、福原喜代男》

自然と歴史のすばらしさを広めることに尽力した6人の山男たちの物語

記載の主な項目から

・坊がつる讃歌誕生のエピソード

・川端康成の来訪と『千羽鶴』の続編『波千鳥』について

・やまなみ道路(九州横断道路)はいかにして建設されたのか

・法華院に伝わる『九重山記』全文と現代語訳を初めて収録

※事務局より

本部会費、支部会費未納の方は早急に納入して下さい。

後記

○発行号数を見たら四九号だ。

次回は五〇号となる。四〇号記念を企画したのがつい先日のように思われるのにもうあれから二年半が経ったのだ。

○「遠き予定たちまちきたりすぎゆきてげに恐ろしき月日の歩み」と山川京子さんが詠まれた

歌を思い出す。それを感じるのも、我が齡(よわい)のはせいか。

○五〇号の企画に何か新しい、よいアイデアがあれば、是非ご提案頂きたいものだ。

○四月の月例山行では、天ぷらと猪ナベの豪華な昼食をこしらうになった。天ぷらは山道を歩きながら採った春の芽吹ききの木の芽や草の芽。

○野趣あふれる料理で、新鮮な春の味を堪能できたのは、たとえようのない贅沢だ。

(K・I)

日本山岳会東九州支部報 第49号

2010年(平成22年)4月25日(日)

発行者 梅木 秀徳之

編集者 飯田 勝之

発行所 〒870-0021

大分市府内町1-3-20

サニースポーツ内 西 孝子方

TEL・FAX 097-532-0926

題字 (故)佐藤正八